

## 12) 卵管癌 5 症例の臨床病理学的検討

野崎真奈美・中村 稔  
倉林 工・吉谷 徳夫  
本間 滋・児玉 省二  
金沢 浩二・田中 憲一 (新潟大学産婦人科)

原発性卵管癌は、極めて希な女性性器悪性腫瘍であり、術前に診断することは困難な疾患とされている。当科で過去12年間に経験した卵管癌5例について、臨床的ならびに組織学的検討を行った。

平均年齢は62.4歳(41~70歳)で、未妊婦は3例であった。臨床症状として、不正性器出血(4例)、水様帯下(1例)、下腹部不快感(1例)、小脳症状(婦人科瘡瘻疑い1例)がみられた。術前の細胞診では、1例が頸部、体部ともに悪性細胞陽性であり、内膜組織診では2例が悪性、1例が悪性疑いであった。CA125値は、測定4例中3例で上昇を認めた。術前診断は、付属器腫瘍(腫瘍)3例、子宮体癌2例であり、卵管癌と診断し得た症例はなかった。術中組織診で診断された症例は3例で、2例は術後摘出標本で診断された。臨床進行期(FIGO卵管癌の期別分類に準じる)は、Ia, Ic, IIa, IIb, IIIcであり、原則的に卵管癌に準じた手術が行われた。組織型は、いずれも漿液性腺癌(中分化型1例、低分化型4例)であった。全例に術後化学療法が施行され、1例がFAMT、4例がFCAP療法であった。予後は、最近の症例が多く経過が短いが、1例が再発し癌死となった。

## 13) 甲状腺未分化癌11例に対するCDDPの臨床効果

筒井 一哉・佐藤 幸示 (県立がんセンター)  
栗田 雄三 (新潟病院内科)  
佐野 宗明・赤井 貞彦 (同 外科)  
富樫 孝一 (同 耳鼻科)  
鈴木 正武・角田 弘 (同 病理)

甲状腺未分化癌は予後が最悪で、近年でも絶望的な疾患とされている。今回、我々は分化癌11例にCDDPを投与し、良好な成績を得たので報告する。「対象および方法」対象は手術もしくは剖検で組織を確認した11例で、大細胞型9例、扁平上皮癌混合型2例である。CDDPの投与は多剤併用で行い、主にEAP(Etoposide 60mg/m<sup>2</sup>×5, ADM 30mg/m<sup>2</sup>, CDDP 80mg/m<sup>2</sup>)療法である。「腫瘍縮小効果」効果判定は固形癌直接効果判定基準に則ると、CR(著効)3例、PR(有効)5例、NC(不変)3例で、奏効率は72.3%であった。「延命効果」CDDP非投与群15例と投与群11例の術後生存率曲線をKaplan-meier法でみると、非投与群のMST(50%生

存期間)は2.5カ月、1年生存率0%であるのに比し、投与群のMSTは11.3カ月、1年生存率43.6%で、有意に(p<0.01)延命効果があった。「結論」甲状腺未分化癌でも比較的早期で全身状態のよい患者は、CD-DPで治癒する可能性があると思われる。

## 14) 進行、再発卵巣癌におけるCDDP(CBDCA), Etoposide療法

中村 稔・吉谷 徳夫  
本間 滋・児玉 省二  
金沢 浩二・田中 憲一  
高橋 威・丸橋 敏  
後藤 司郎・新井 繁  
湯沢 秀夫・大桃 幸夫  
徳永 昭輝・竹内 裕夫  
花岡 仁一・星野 茂夫  
阿部 進・渡辺 担  
高橋 完明・笹川 基  
上田 昌博・西山 藤司夫  
渡辺 隆夫・茅原 保  
高橋 正明・須藤 寛人  
安達 茂実・八幡 剛喜  
永松 幹一郎・西村 紀夫  
鈴木 孝明・大野 雅弘 (新潟婦人科腫瘍研究会)  
後藤 明

CDDPとEtoposide(VP-16)の併用については基礎的検討がなされ、相加・相乗効果のあることが確認されている。またCDDPのanalogueであるCBDCAは、卵巣癌においてCDDPと同等の高い有効率(38%、日本における第2相試験)を示した。今回CDDP(CBDCA)とvp-16との併用療法の有効性について臨床的検討を行った。対象は原発性卵巣癌21例(前治療無7例、前治療有14例)で、CDDP(CBDCA)は50mg/m<sup>2</sup>(300mg/m<sup>2</sup>)をD1に、vp-16は100mg/m<sup>2</sup>をD1-5に投与し、原則として2コース以上治療した評価可能症例の有効率は、前治療無で85.7%(6/7, CR2, PR4)、前治療有で22.2%(2/9, PR2)を示した。dose limiting factorは骨髄抑制でCBDCA例では血小板の減少を認めたが、tolerableであった。このresimenは進行卵巣癌のinduction chemotherapyとして有効であるが、治療抵抗例、再発例については今後の検討を要すると思われる。

## 15) 高齢者進行肺癌治療の問題点

横山 晶・各務 博 (県立がんセンター)  
木滑 孝一・栗田 雄三 (新潟病院内科)

今回我々は、1982年~89年に当院を受診下70才以上の高齢者肺癌患者のうち非手術例につき検討した。症例は非小細胞癌175例(男性131例、女性42例)、小細胞